

なかじま ながし

# 中嶋嶺雄 (国際関係論) 教授が語る、 『外語祭いまむかし』

「狂乱の5日間」がやってきた!! 気がつけば民族衣装に身を包み、学内を走り回る自分。古の外語祭は何加様であつたのか、本学卒業生でもある中嶋教授にお話を伺いました。



私の学生時代の外語祭について何か書くようにとのことなので、当時の外語祭プログラムを探してみたら、保存書類用書架の中から一九五七年と一九五八年のものが出てきた。私の大学二年生と三年生の時のものだから、もう三十年以上も前のことになる。古いプログラムを眺めると、外語祭のあれこれがい先日のことのように想い出されて、やはり懐かしい。

現在の外語祭との大きな違いが、二つある。その一つは当時本学には講堂がなかったため、名物の語劇が学外で催されたことであり、五七年は千代田区公会堂、五八年は中野公会堂であつた。他の一つは語劇祭と並んで文化祭が外語祭にあつたことであり、講演、音楽、演劇などが行われた。

私が大学三年生の頃は、『六〇年安保』の前で学生運動が大いに盛り上がっており、私自身も当時は全学的な組織であつた学友会(自治会)の委員長として「勤評闘争」などに没頭していたが、今、そのときの外語祭のプログラムを見ると、中野公会堂の文化祭では私がヴァイオリンを独奏している。ウイニアフスキの「譚詩」やモーツァルトのロンド・ニ長調などを弾い



た記憶があるが、プログラム上は四十分も舞台にいたことになっており、このほかにユ一モレスクその他の小品をいくつか演奏した。すると拍手と一緒に「勤評反対!」と野次が飛んだので、会場がドツと沸いたことも憶えている。



お忙しい中の御寄稿ありがとうございます。いつか我々にも今日の外語祭を思い出して語れる日が……?

by 元

# ジャングル探検記

学内限定版

パンフ



東京外国語大学生活協同組合  
組織部編集 理事会発行